令和５年度　　日吉中学校学力向上プラン　　長崎市立日吉中学校

学校教育目標

自ら学ぶ、心豊かでたくましい児童生徒の育成

めざす児童生徒像

Ⓣと（他者）に優しい子　Ⓗく考える子　Ⓖなやかで元気な子

研究主題　　学ぶ楽しさを感じ、自ら学ぶことのできる児童生徒の育成

～幅広く多様な考えを引き出す授業の研究を通して～

【仮説】対話的な学習方法を工夫するために、ICT の活用や他校との交流を図ることで、発想力、表現力を高め、自ら学ぶ姿勢と深い学びにつなげることができるであろう。

今年度の重点目標

自ら考え、表現することのできる生徒（発想力・表現力）の育成

授業アンケート　自分の考えを、理由を含めて説明できる　８０％

自分の考えを、相手にわかるように工夫して説明できる　８０％

授業改善

主体的・対話的な深い学習の構築

・ペアやグループで話し合う対話的な場面を取り入れた授業づくりをする。

表現させる場面の設定

・「書く」場面、「考える」場面を意図的に設定し、自分の考えをもつ習慣を身につけさせる。
・根拠をもって説明する、スライドを使って説明したりするなど、自分の考えを自分の言葉で話す場面を、一単元で一回以上設定する。
・ＩＣＴ機器の活用。

目標、概念の可視化

・見通しをもって学習し、確実に身につけることのできる授業のために、「めあて」と「まとめ」を生徒に書かせ、定着を図る。

多様な考えに触れさせる

・他校との交流や他校の生徒の考え、レポート、作品等に触れる機会を持ち、多様な考えに触れさせる。

学習習慣の向上

家庭学習時間の確保

宿題としてのデジタル教材、機器の活用。
自主学習に向けて。

メディア視聴時間のコントロール

メディアアンケートの継続
学校保健委員会や懇談会等での保護者への説明。

職員研修

・小学校と連携して研究を進める。小学校は「協働的な学び」に視点を置き研修をしている。
・全職員参観の全体授業を小学校、中学校とも１回ずつ行う。また、授業を自由に参観できる期間を設ける。
・ICT 機器活用研修の実施。

課題	要因
※全国、県の学力調査では例年、国、数、英ともに全体で、平均を上まわっているが、少人数のため項目ごとの正答率を見ると個人の偶然性による部分も大きいと推測される。そのため、校内のテスト、授業、指導者の実感を加え、課題を分析した。	
・どの教科においても、思考力・判断力・表現力において課題が見られる。特に、表現力において、「書く力」「話す力」に課題がある。 ・アイデアが出ない、対話的場面で違った意見が出にくいなど発想力に課題が見られる。 ・自分の考えを理由を含めて説明することが苦手である。 ・全学年とも家庭学習の時間が極端に少なく、宿題以外の取組ができていない。 ・家庭でのメディア使用時間が長い生徒が多い。	・少人数のため、多様な意見や考えに触れる機会がない。 ・人間関係が固定されており、友達の考えに影響されやすい。 ・多様な進路に触れる機会が少ない。 ・毎日の家庭学習の習慣がついていない。 ・メディア使用について、家庭でのルールがあいまいである。

各教科の学力向上プラン

	課題の把握（R）	授業改善・家庭学習（P→D→A）	検証方法（C→R）
国語	書くことに対する抵抗感が依然としてややある。 長文（原稿用紙に２～４枚）を最後まで書けない生徒がいる。	４００字程度の短作文を取り入れて、添削を受けたり、自分で推敲したりすることを繰り返させる。漢字練習や言葉の意味調べで語彙量を増やさせる。	テスト（条件作文で無回答をなくす正答率 70%）
社会	自分の考えを「～だから…である」など、根拠を明確にして表現をすることが苦手である。	穴埋めや選択式以外にも、文章で自分の考えを書くもしくは伝える活動を、１時間の授業内に必ず 1～2 回設ける。	単元テストや定期テストにおける記述問題での正答率 60%
数学	学力調査にはなかった問題（知識・技能、思考力・判断力・表現力の両方）を期末テストや実力テストで出すと、解けない、わからない傾向がある。	Qubena を活用し、知識・技能を身につけさせる。授業の中で、思考力・判断力・表現力を問う問題を扱い、電子黒板等を使い、説明する場を設ける。	期末テスト、実力テストで、Qubena から出題。 平均正答率６０%
理科	計算や物理的・化学的内容を論理的に考えることに苦手意識があり、理由を明確にして説明することが難しい生徒が見られる。	実験の考察など筋道立てて考えたり、他者に分かりやすく説明したりする機会を増やす。また、授業の終盤に、まとめを自分なりの言葉で文章化して表現する活動を取り入れる。	授業観察 期末テストや単元テストで記述式の問題での正答率 60%を目指す。
英語	自分の考えを「書くこと」「話すこと」に対する苦手意識が強いが、無回答率は低い。「書くこと」の定期・実力テストにおける得点率は４３%である。	授業内で、できるだけまとまった英文を書く、話す機会を設け、定期・実力テストでもそのような問題を取り入れる。他の生徒が書いた英文等を電子黒板や学習者用 PC を活用して紹介したり、会話を発表したりして、多様な考え方に触れさせる。	授業観察 定期テスト 実力テスト （平均正答率60%が目標） ワークシート
音楽	技能においては、個別に能力の差がみられる。主体的に取り組む力は弱い。	多くの楽曲を歌唱することにより、音楽への興味関心を持たせ、楽しく意欲的に表現する態度を育成する。	テスト（技能）
美術	積極的な質問が少なく、こちらからの指示を待っている生徒がいる。全体的に発想力に欠ける。	数多くの参考作品を鑑賞させ、気づいたことを発表させる。	制作作品 アイディアスケッチ
保体	１学期の評価で、知識・技能と主体的に取り組む態度に対して、思考力・判断力・表現力の数値がやや低い。	技能面のスキルアップの時間を確保する。ゲームの場面では作戦を話合い、ゲームに生かさせる。	フォームでの振り返り 授業観察
技術・家庭	＜技術分野＞ 製作課題などに様々なアイデアを出すことができるが、経験不足からか思考力・判断力・表現力がやや低い。	先輩や他校生徒の作品を参考にしたり、インターネットで検索したりすることで経験不足を補充し、多様な考え方の中から最適解を導かせる。	作品、製図、ワークシート、レポート
	＜家庭分野＞ 授業で学習したこと生かして、家庭生活の課題を解決に結び付けようとする意識が低い。	生活の課題を改善し、学習を実践に結び付けるレポートを長期休業ごとに提出させる。授業でも、実践的・体験的に進め、工夫して取り組ませる。	レポート アンケート